

【グループ病院薬剤師の職能を理解し体験する

～まるわかり病院薬剤師の1週間～ 薬学部学生対象に開講】

国際医療福祉大学病院で薬学部学生を対象に開講している「まるわかり、病院薬剤師の1週間」は、病院薬剤師と一緒に朝礼から就業、さらに職員食堂で同じ食事まで共にする1週間です。

関連病院を持つ薬学部では、1年次に病院を見学する早期体験はあるものの、病院薬剤師について深く知るには、5年次の実務実習まで待つ必要がありました。残念ながら、グループ病院の薬剤部をよく知らないまま就職活動に向かえる学生も多いようです。そこで、薬学部の学生に病院薬剤師についてもっとよく知ってもらうため、仕事や生活を共にすることで、病院薬剤師としての目標や価値観を共有する体験プログラム「まるわかり病院薬剤師の1週間」が生まれました。

受講した薬学部5年生の阪口愛巴さんは、「今回、『まるわかり、病院薬剤師の1週間』に参加し、薬剤師の先生方と同じスケジュールで1日過ごすことで、実習とはまた違う薬剤師の実際の仕事というものが体験できました。調剤だけではなく、病棟の患者さんと関わったり、チーム医療を間近で見学できたり、さらにそれについて先生方に丁寧に教えていただくこともできてとても勉強になりましたし、何よりとても楽しかったです。また、この時期に薬剤師の仕事が実際体験できることで、自分の進路決定の参考になりました。先生方との距離も近く、就職活動の際、生まれた疑問についても丁寧に答えてくださいました。就職先についてとても迷っていましたが、病院薬剤師っていいなと強く思えるようになりました。とても有意義で楽しい1週間になりました」と、興奮冷めやらない様子で、感想を述べてくれました。

また、このプログラムの実施責任者の橋本竜副主任は、「病院薬剤師が大変というイメージの学生も多いようですが、その『責任の重さ』、そして患者や他職種からの感謝による『やりがい』を実感してくれたようです。受講生のモチベーションも高く、実務実習生や部員にもよい影響があります」と運営側のメリットを語っています。

さらに、本プログラムを発案した、佐藤淳也薬剤部長は、「このプログラムは、1年次から受講可能ですので、1-3年生には、基礎薬学の先にどのような臨床業務があるのかを理解する機会に、そして4-5年生には、進路選択のよい機会になれば幸いです」と、参加にあたっての学年ごとの心構えを示しています。

このプログラムをもとに、病院薬剤師の職能を深く知り、グループ病院のチーム医療に関わるメンバーが一人でも多く増えることが期待されています。

